

浜松市版『人生会議手帳』について

看護師長 高田なおみ

浜松市では、昨年12月に、在宅医療介護連携推進事業を通じて「人生の最終段階における医療・ケアに関する話しあい」を地域ならびに家庭で進めていくために「人生会議手帳」という冊子を作成しました。

命の危険が迫った状態に陥ったとき、7割の方が、医療やケアについて自分で決めたり、望みを人に伝えたりすることができなくなるといわれています。自らが希望する医療やケアを受けるためには、普段から大切にしていることや望んでいること、どこでどのような医療やケアを受けたいのか、元気なうちから前もって考え、周囲の信頼する人たちと話しあい、共有しておくことが大切です。そのような話し合いのプロセスを最近「アドバンス・ケア・プランニング(ACP: Advance Care Planning)」と言い、国は「人生会議」という愛称をつけました。

浜松市で今回作成した人生会議手帳には、地域の皆さんが自ら大切にしていることを振り返り、人生の最終段階で希望する医療やケアについて考え、それを大切な人と話し合うきっかけとなるように、自分の思いや希望等を書き込むページや、なぜ考えることが必要なのかといった情報が掲載されています。

今後、この手帳は各種研修会や講演会などで説明を受けた方々や希望者に、地域包括支援センターを通じて配布されます。市民の皆様には手帳の内容や活用の仕方などを、医療や福祉に関わる専門職の方々には手帳に記入する市民の皆様とのかかわり方についてお伝えしていく予定です。

「わたし」らしく生きるために、人生会議手帳を開いて、ご家族や親しい人と一緒に考えてみませんか。

